

木村浩二先生の講演会「伊達政宗のまちづくりー城下町仙台の秘密」開催について

平成 31 年 2 月 27 日(水)

TSA広報委員会 市場芳男

昨年 11 月末に、井戸川TSA会長から木村浩二先生の講演会開催の連絡を依頼されました。平成 27 年 5 月にNHKテレビ「ブラタモリ仙台編」で、2 週にわたりナビゲーターを務めた方です。

早速、木村先生に 2 月 8 日の講演会の都合を伺ったところ、すでに午前中に仙台市内の小学校の講演会、午後から某教養セミナーの 2 件の先約があり、難しいとの事。

1 日にトリプルの講演会は大変なので遠慮したいとの話をされましたが、TSA正会員および賛助会のメンバーが興味を持つ内容であることを是非理解してほしいと説明し、快諾して頂きました。

講演要旨は、「政宗公はなぜここに城と城下町を作ったのか。絵図、古地図、そして街なかに残された痕跡に、その秘密を解き明かすカギが隠されている。歴史だけでなく、地理、地形、都市計画、土木など様々な視点から仙台の魅力を探る。」です。

2 月 8 日は予想以上の参加者がありました。当協会が提供したテキスト「江戸時代の仙台を歩く『仙台地図さんぽ』」を基に、仙台城と若林城の二つの城が存在した事、地形として河岸段丘である事、街区配置に「丁」と「町」の住み分け、四ツ谷用水などについて話をしました。

講演は他の講演会の数回分を凝縮された内容で、90 分は短すぎたと改めて感じました。

木村先生から、話の終わりに、屋敷(建物・屋敷林)は焼失したが、町割(街区・道路)は旧状を留めているので、“絵図をもって町に”の話がありました。

木村先生は、「仙台地図さんぽ」を企画編集した、風の時編集部の佐藤正実さんと年数回、仙台の街中を散策しています。私自身も参加したいと思っていますが、企画が募集された時点で満員となり、締め切られてしまうほど人気があります。

講演を聞かれた方々が、自分自身で「仙台地図さんぽ」を傍らに持って、仙台の街中を歩いてもらいたいと思います。

講演会を企画された、TSA事業委員会にお礼を申し上げます。

